プロの声楽家らがミニオペラを披露。観客を魅了した（5面に関連記事）

旭川荘だより

vol. 283
2025.1.1 発行

CONTENTS

P3　加計美術館で「岡山ー上海友好絵画展」
P4　アートギャラリー展　受賞作品決まる
P5　フレッシュマン　松坂実侑さん
P6-7　インタビュー企画　この人に聞く

発行／社会福祉法人　旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131　FAX 086-275-5640
https://www.asahigawasou.or.jp

川崎医科大学総合医療センターで
5年ぶりに「ふくのいち」開催（2面に関連記事）

ASAHIGAWA_SO

巳年を迎えて

理事長　神﨑　晋

明けましておめでとうございます。今年は巳(へび)年です。蛇はしばしば嫌われ者扱いをされ、古事記や日本書紀では、頻繁に氾濫する河川を、蛇(ヤマタノオロチ)にたとえ、備中、出雲神楽はヤマタノオロチをスサノオノミコトが退治する物語です。一方、蛇は古来より豊穣や金運を司る神様として祀られることもあり、神聖な生き物として認識されてきました。たくましい生命力があり、脱皮をするたびに表面の傷が治癒していくことから、医療、治療、再生のシンボルともされています。

世界保健機構(WHO)、世界医師会や日本医師会のロゴ、欧米や日本の救急車の車体マークには、蛇が描かれています。多くは蛇が杖に巻き付いていますが、この杖は「アスクレピオスの杖」と呼ばれ、ギリシャ神話に登場する名医アスクレピオスの持つ杖のことで、医療・医術の象徴です。

過去の巳年を振り返ると、1989年は平成が始まり、バブル経済の絶頂期、2001年は「聖域なき構造改革」の小泉純一郎政権が誕生、2013年は「アベノミクス」が本格的に始動した年です。蛇が脱皮して新しくなるように、日本社会も大きな変化や再生する出来事が多く起こっています。今年の干支を詳しく言うと「乙巳(きのと・み)」です。「乙」は未だ発展途上の状態を、「巳」は植物が最大限まで成長した状態を意味します。従って、「乙巳」は、これまでの努力や準備が実を結び始める時期を示唆しています。

旭川荘も、昨年から経営企画室や、将来像を描くプロジェクトチームが設置され、改革へ歩み始めました。改革にはさまざまな試練が立ちはだかりますが、どんな試練に直面しても「蛇に見込まれた蛙」のように萎縮することなく、ひとたび目標を定めたならば「竜頭蛇尾」に終わることがないように頑張ります。

「ふくのいち　写真・作品展」川崎医科大学総合医療センターで5年ぶり開催

旭川荘の利用者が手掛けた製品やアート作品を紹介する「ふくのいち　写真・作品展」が12月3日から6日まで、川崎医科大学総合医療センター(岡山市北区中山下)で行われました。同センターでのふくのいちは、コロナ禍のため2020年以降は中断しており、5年ぶりの開催となります。

3階待合スペースを会場に、荘内10施設で作られたイノシシ革のキーホルダーやさおり織のコースター、木製パズル、干支の置物、陶製カップなど約1,000点を展示販売。なかでもクッキーなどの焼き菓子は初日で大半が売り切れ、追加搬入分もすぐに完売するなど大好評で、そば殻の枕、結び織マットも人気を集めました。

気になる製品を手に取り選ぶ人たち

伸び伸びと描かれた絵画が訪れた人たちを笑顔に

会場には旭川荘アートギャラリーの作品も24点(絵画22点、立体作品2点)展示。訪れた人たちが、丸や三角、四角の時計の文字盤を画面いっぱいに描いた絵画や、牛窓のだんじりまつりをテーマにした切り絵、猫をモチーフにした陶芸作品など、利用者の自由な発想から生まれた個性あふれる作品に見入っていました。

このほか、来場者を対象に実施したアンケートには「コロナ禍からの再開嬉しいです」「楽しみにしていました」「ぜひ来年もお願いします」など、5年ぶりのふくのいち開催を歓迎するコメントが多数寄せられました。

岡山－上海友好絵画展　加計美術館で開催

岡山―上海友好絵画展「きらめきは海を越えて2024」が11月23日から12月1日まで、倉敷芸術科学大学加計美術館（倉敷市中央）で開催されました。

この絵画展は、昨年7月から8月にかけて中国・上海市で開催した「上海―岡山友好絵画展」（旭川荘だより第281号参照）で展示した児童福祉施設や特別支援学校の児童らの絵画92点を岡山でも展示するもので、2020年11月に天神山文化プラザ（岡山市北区天神町）で開催した障害児者絵画交流展「きらめきは海を越えて2020」以来、日本では4年ぶりの開催となりました。

会場には、落花生を貼り付けた絵や京劇俳優の肖像画、浦島太郎や金閣寺の絵など、日中双方の個性豊かな絵画が展示スペースいっぱいに並びました。期間中は、倉敷美観地区内という立地もあって岡山県外や海外からの観客も多く訪れており、この絵画展では過去最高となる約1,000人が来場。大阪府から訪問した家族は「色使いが特徴的でおもしろい。このような機会が増えるといいと思う」と鑑賞を楽しんでいました。

絵画を鑑賞する観客ら

上海市の代表団が絵画展を訪問

上海市の代表団が絵画展の開催期間中の11月28日、加計美術館を訪問し、岡山側の関係者も参加して友好交流式が開催されました。

代表団は、上海市人民対外友好協会の傅継紅（ふけいこう）副会長、黄浦区弁公室の王小尚副主任、上海市呉昌碩記念館の呉越執行館長、上海市文史館の張国恩氏ら8人で、岡山側からは、旭川荘の神﨑晋理事長、みその児童福祉会の江草明彦理事長、加計美術館の児島塊太郎館長、岡山市日中友好協会の黒住昭子副会長ら9人が参加しました。

式典では、神﨑理事長が「新鮮な発想で丁寧に描かれた絵画を通じて、多くの方々に感動を味わっていただきたい」とあいさつ。傅副会長は「作者たちが星のように輝き、誰もが活躍できる社会になるよう願っている」、江草理事長は「絵を美しいという気持ちに国境はない。すべての子どもたちの幸せにつながってほしい」とそれぞれ述べました。

敬愛館を訪れた代表団（奥の5人）

日中友好の樹を囲んで

その後、カレッジ旭川荘の利用者が描いた「日中友好の樹」の絵に、日中双方の代表者が紙で作られた花を貼るセレモニーが行われ、見事に咲いた「友好の花」に会場は笑顔に包まれました。

なお、加計美術館の児島塊太郎館長の祖父である児島虎次郎は、呉越執行館長の曽祖父で近代中国を代表する画家・呉昌碩と交流があったことから、児島館長と呉越館長も長年にわたる交流をしており、ともに2019年の上海市での絵画展の初開催以来、会場の提供などに多大なご協力をいただいています。また、式典に参加した張国恩氏は、2020年の新型コロナの流行期に上海市を応援した日本人らに向けて、感謝の意を込めた掛け軸を製作しており、旭川荘も2023年にその贈呈を受けています。

上海市の代表団は、翌11月29日には旭川荘を訪問して敬愛館や旭川敬老園を視察。神﨑理事長、新井禎彦副理事長らが出迎え、高齢者介護や障害者福祉に関する人材の相互交流など、今後も福祉分野での交流を継続していくことを確認しました。

第15回旭川荘アートギャラリー展　受賞作品決まる

「第15回旭川荘アートギャラリー展」の表彰式を12月17日に行いました。今回は荘内15施設の161人から延べ378点の応募があり、審査の結果以下の5賞と特選作品11点が選ばれました。

表彰式では、神﨑晋理事長が「旭川荘理事長賞」などを受賞した5人に表彰状と記念品を贈りました。神﨑理事長は「感性豊かな作品ばかりで選考に苦労しました。来年も素晴らしい作品を期待しています」とあいさつ。「江草安彦賞」を受賞した望の丘ワークセンターの物部紘二郎さんは「賞をとれて嬉しいです。これからもいい絵を描いていきたいと思います」と喜びを述べました。

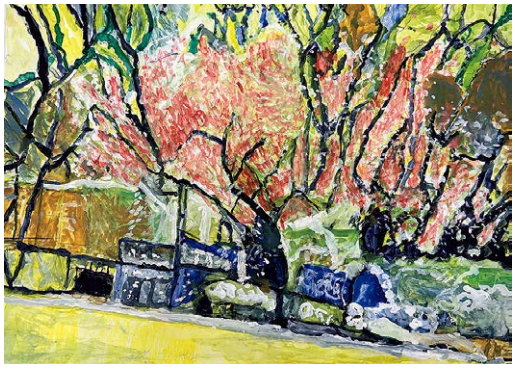
「旭川荘アートギャラリー展2024冬」は同ギャラリーで12月19日から2月28日まで開催しており、受賞作品を含む44点を展示。平日午前9時から午後4時まで、入場無料でご覧いただけます。

賞状を持って記念撮影をする受賞者ら

江草安彦賞

「辰年トンネルを抜ける 春の星空へ行く」
物部 紘二郎さん（望の丘ワークセンター）

旭川荘理事長賞

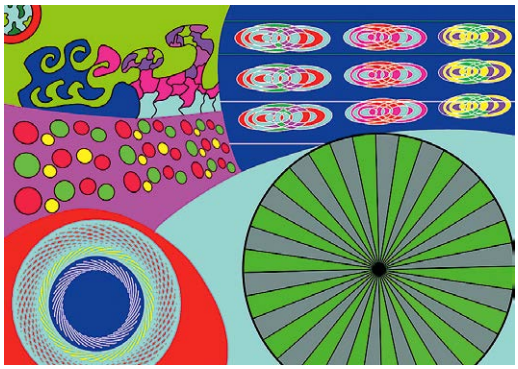


「ひらたの春」
糸濱 とし子さん（のぞみ寮）

岡山県食品卸同業会会長賞

「ジンベイザメとさかなたち」
橘 邦彦さん（デイセンターあかしや）

旭川荘友の会会長賞



「夏まつり」
八田 隆之介さん（カレッジ旭川荘）

清水やそし賞

「ロ・ク・ロ」
守安 照幸さん（いづみ寮）

特 選

鯉	松山 玉江さん（のぞみ寮）
私、きれい?	鈴木 崇子さん（のぞみ寮）
俺は魚だ	後藤 邦雄さん（愛育寮）
壁アート	上坂 功さん（望の丘ワークセンター）
どう?かわいいでしょう	河本 弘子さん（デイセンターあかしや）
福渡周辺のにぎわい	青木 孝雄さん（デイセンターあかしや）
月のきれいな夜に思うこと	武鑓 雅弘さん（デイセンターあかしや）
窓のムコウ側	利用者と職員合作（旭川学園）
たくさんのスマイル	古井 秀夫さん（いづみ寮）
備前焼 入れ物	濱田 寛之さん（いんべ通園センター）
ペンギントリオ	神宮司 美蓮さん（ペンネーム）（津島児童学院）

お問い合わせ：旭川荘アートギャラリー　岡山市北区祇園866（旭川学園隣）　電話086-275-0131（旭川荘代表）

フレッシュマン
－Newcomer introduction－

利用者さんの「ありがとう」にやりがい

吉備ワークホーム　生活支援員　松坂（まつさか）　実侑（みゆ）さん（22歳）

「福祉は『ありがとう』と直接言ってもらえる仕事。利用者の方に心からそう言ってもらえる時にやりがいを感じる」と笑顔で話す松坂さん。昨春、旭川荘に入職し、障害者支援施設の吉備ワークホームで働いています。

香川県出身で、ノートルダム清心女子大学人間生活学部に進学。入学して数カ月、何気なく参加した児童との野外活動のボランティアで「自分が関わり人を笑顔にできたことで、福祉の仕事に魅力を感じた」と言います。また4年生の就職活動の一環で行った知的障害者施設でのボランティアでは「障害のある人たちが地域で働き、認められ、地域の力になっている様子に好感を持った。何よりうそのない笑顔に魅了された」ことで、障害者福祉へ目を向けるようになりました。卒業と同時に社会福祉士の資格を取得。吉備ワークでの仕事について聞くと「障害のある人が仕事を通して地域と関われる。私も毎日、充実している」と声を弾ませます。

今でこそ、利用者に積極的に話しかけ、笑顔で会話を楽しむ松坂さんですが、最初は「コミュニケーションを取るのが難しかった」とのこと。「先輩が間に入って会話をつないでくれたり、個々の利用者さんに対しどんなふうに声掛けをするのか、そばで学ばせてもらった」そうです。これまでに印象に残った出来事として挙げたのは、女性利用者の買い物に同行した時のこと。たくさんの商品を前に悩んでいる様子を見て、そばに寄り添いあれこれ提案したところ「最後に『ええ買い物ができたわ。ありがとう』と喜んでもらえた。普段口数が少ない方なので、本当に嬉しかった」と振り返ります。

作業場ではボルトの組み立てなどの軽作業を担当。「利用者さんの仕事が認められるように」と丁寧な検品や作業環境の整備などを心がけている

「今は先輩を見て学ぶことばかりだが、利用者さんに頼られ、思いを汲み取って対応できる職員になりたい。利用者さんの生活が豊かになるような支援ができれば」と松坂さんは話しています。

ミニオペラ「カルメン」上演 観客を魅了

プロの声楽家らによるミニオペラ「エスカミーリョが語る『カルメン』」の特別公演が11月27日、旭川荘療育・医療センターの多目的ホールで行われ、利用者や職員らが声量のある歌声や迫真の演技を間近で体験しました。

カルメンとエスカミーリョが愛の言葉を交わす場面を演じる山下さん（右）と小林さん

このミニオペラはビゼーのオペラ「カルメン」を演奏会形式にしたもので、昨年8月に山形県長井市で市の記念事業として行われた演目。この度、公演のプロデューサーを務めた、旭川荘のグラチア・アート・プロジェクト代表の瀧井敬子さんとのご縁で、特別に旭川荘で開催されました。

公演は第8回グラチア音楽賞受賞者の山下牧子さんをはじめ、小林由樹さん、宮里直樹さん、文屋小百合さんの4人の声楽家がそれぞれ、主人公でジプシーの女カルメン、語り手の闘牛士エスカミーリョ、軍隊の兵士ホセ、ホセの許嫁（いいなずけ）ミカエラの役で出演。演者は、第3回グラチア音楽賞受賞者でピアニストの佐野隆哉さんによるピアノ伴奏に合わせて主要場面を歌い、役柄のイメージに合わせて選んだ旭川荘利用者の絵画を背景のスクリーンに映す演出もありました。

カルメンが取り巻きの前で歌う場面では、山下さんが客席の間を縫うように移動しながら「ハバネラ」の曲を歌い、時折利用者らの手を取ったり、顔をのぞいたりと観客を巻き込んで会場を盛り上げました。

翌28日には旭川荘厚生専門学院のリズム棟でも上演。舞台で繰り広げられる迫力のある演技に利用者や学生らが見入っていました。

広報委員インタビュー企画

この人に聞く 第4回

カレッジ旭川荘 学院長
大月 政和（おおつき まさかず）さん

旭川荘で働く職員へのインタビュー企画「この人に聞く」。第4回は入職以来、知的障害者通勤寮「ぎおんハイツ」（2010年から宿泊型自立訓練事業、2016年廃止）「岡山障害者就業・生活支援センター」など障害のある人たちの社会自立を支援する業務に携わり、現在はカレッジ旭川荘の学院長を務める大月政和さんに、これまでの経験や地域と人をつなぐ福祉の役割、今後取り組んでいきたいことなどを聞きました。

聞き手／笠原佳子（旭川児童院）

Q 福祉の仕事を選んだ理由を教えてください。

A 高校の時から福祉に興味があり、福祉系の大学に進学。入所の施設で生活をサポートしながら働けたらという思いがあり、就職活動を進めていました。当時の自分は特に取り柄もありませんでしたが、人に優しさを提供できる自分のよいところを生かせるのではないかという漠然とした思いから、旭川荘に入職しました。

Q 就職してから感じたことや印象に残ったエピソードを聞かせてください。

A 最初に配属された「ぎおんハイツ」は障害のある方の就労・自立の拠点で、私には全くイメージの無い施設でした。雇用先の開拓や実際に働いている方の見守りのための職場訪問など、自分が不得手とする“営業”のような仕事を任されましたが、今思えば当時の上司が随分気遣って、フォローしてくださったのだと思います。就職したばかりだったので、職業人である利用者さんとの出会いはとても刺激になり、自分の人生や生き方についても考えさせられる時期でもありました。

また、プライベートでは、地域の借家で障害のある方と一緒に住んでいたこともありました。共に暮らすことで、地域で暮らすこと、生きていくことを少しでも垣間見られたらという思いで始め、気が付けば7年経っていました。当時は地域で暮らすことが最先端でしたが、その人たちが望むのはそこがゴールではなくて、そこでの生活の楽しみなど。まだまだ発展性を持って地域生活を考えていかなければいけないということを感じました。

インタビューに応える大月さん

Q 「地域で暮らす」をサポートするには地域の理解も必要ですね。

A 旭川荘近隣のエリアでは地域とのネットワークを作って、利用者さんと職員が地域の方と交流しながら理解を進めていく取り組みをしました。当時はヘルパーや相談員といった福祉サービスもなく、地域の方が見守りのサポーターのような意識を持ってくれていたように思います。全国でも同様の動きがあって、今の福祉サービスが整備されてきました。各地から届く最新の情報が刺激になって職員のモチベーションが上がり、本当に活気のある職場でした。

Q 障害のある方の「働く」をサポートするなかで感じたことは？

A 「障害者就業・生活支援センター」は省庁再編で厚生労働省が発足した時のパイロット事業でした。ぎおんハイツのノウハウも当然生かされたと思いますが、いきなり幅広い障害の特性に応じた専門性を求められ、十分対応できないし、各機関に我々の活動を知ってもらうのも時間がかかりました。支援学校でも就職や自立を意識した取り組みをしており「雇用、福祉、教育の一体的な連携」がこの事業の目玉だったと思います。

Q そうした経験がカレッジの仕事につながっているんですね。

A カレッジ旭川荘は2年間の自立訓練と、2年間の就労移行支援を活用した「大学形式の学びの場」

で、開設の準備段階から関わらせてもらいました。もともと制度に無いものなので、自分たちが探りながら常に新しいものを目指していて、本当に楽しいです。将来的には知的障害や発達障害のある方々が利用できる本当の学校を目指したいですし、当たり前のことを当たり前に行える世の中になってほしい。世の中が変わっていくよう尽力することが使命だと思っています。

Q 若い職員のみなさんにメッセージをお願いします。

A 思いもよらない職種からスタートしたのですが、仕事をするうえでの楽しみを体感できました。旭川荘は総合医療福祉施設としての基盤があり、高い専門性や経験を積んだ人が多い中で自分を磨くにはいいところだと思います。既存のものではない、あなたのものを自分自身が作り上げる、そんな気持ちで仕事をやっていると楽しくなるのかなと思います。

大月政和さん
1995(平成7)年入職。ぎおんハイツ、岡山障害者就業・生活支援センターを経て、2017年にカレッジ旭川荘副学院長、2021年から学院長。2012年4月から2年間、総社市の「障がい者千人雇用事業」に携わる。

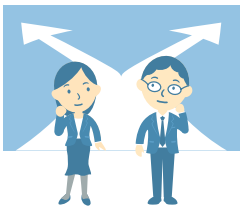
取材こぼれ話

インタビューの後、クラブ活動の様子を見学させていただきました。大月さんが担当する「お笑いエンターティナークラブ」は歌や落語、コントなどに取り組んでいるそうです。「自分はお笑いネタの確認をしたり、腹式呼吸のアドバイスをしたり。裏方です」とのことですが、カレッジ生たちが人前で生き生きと表現する姿に触発されてか、「『与作』を演奏すること」を目標に1年ほど前から尺八を独学で練習中だそうです。

インタビューは大月さんがまとう温かく優しい空気感の中、クスっと笑えるエピソード満載の楽しい時間となりました。法の整備やサービスが十分ではなかった時代から目の前の人に何ができるのか常に考え、前に進んで行く大月さんには、背中を見せて見守ってくれた先輩や同僚、リスペクトし合えた企業や行政の担当者、支援学校の先生等々関わる多くの人たちの存在がありました。現在は背中を見せる側でもある大月さん。今後もたくさんの人を巻き込み、「当たり前の世の中」の実現に向けて、その歩みはより力強いものになるのだろうと感じました。

リレーコラム

年男・年女って縁起が良いの？



2025年が始まりました。皆さんは、年末年始をどのように過ごされましたか？

新年早々昨年の話で恐縮ですが…。私は昨年、年男でした。生まれた年と同じ十二支の年を迎えた男女のことを「年男・年女」と呼び、「縁起が良い」と言われることが多いです。

なので周囲の方から「年男？縁起良いねえ」とか「今年は良いことあるよ」というような言葉を少なからずいただきました。そんな1年がどうだったかといいますと、肺炎を患い人生初の入院をすることになり、職場の皆さんに迷惑を掛けてしまいました。ついでに息子も膝を怪我して初めての入院、手術を経験するという、なんとも言い難い1年だったのです。

思わず、「年男なのに…」なんて考えてしまいましたが、「年男・年女」の年は「困難にぶつかることが多い」とか「人生の分岐点」「自身の未来について考える機会」とも言われているそうです。

そう考えると確かに、どうしようもなく1カ月近く仕事を離れたことで、ゆっくりと自分自身を見つめ直すことができましたし、子供も精神的に少し成長したように感じられなくもないなと思いました。入院中は精神的にとてもつらい思いをしましたが、捉え方によっては今後の糧となる時間だったのかもしれませんし、いろんな物事は、捉え方次第でその意味が変わっていくものだと感じました。

また新しい1年が始まりました。今年もいろいろなことがあると思いますが、年男・年女の方もそうでない方も、皆さんにとって良い分岐点となる1年であることを願っています。

（広報委員　児玉元良）

秋の清掃活動 祇園、ひらたで実施

ナカシマプロペラの皆さんによる清掃活動が11月9日、祇園地区で行われました。同社の活動は1995年から始まり、30年目になります。

用水路の雑草を丁寧に刈っていくナカシマプロペラの皆さん＝祇園地区

同社の社員約300人と旭川荘の職員、利用者ら約80人が参加。グループに分かれて、施設の敷地や用水沿いなどに伸びた雑草を草刈り機で刈り、熊手などを使ってビニール袋に回収しました。

また、ひらた旭川荘でも11月16日、中電工の皆さんによる清掃活動が行われました。同社の社員45人と旭川荘やトモニーの職員17人が参加し、高所作業車で樹木の高枝の剪定や落ち葉の回収などを行いました。

門付近の樹木の高枝を剪定する中電工の皆さん＝ひらた旭川荘

それぞれ作業後は、日ごろ手入れの行き届かない場所がすっきりと整えられ、快適に過ごせる環境になりました。

ノウフクマルシェに参加 旭川荘から5施設

障害のある人たちが丹精込めて作った農作物や加工品を販売する「ノウフクマルシェ2024　農業×福祉の出会いの2日間」が11月16、17日に下石井公園（岡山市北区幸町）で行われ、吉備ワークホームや松山ワークセンターなど5施設が参加しました。

ノウフクマルシェは、障害のある人たちの農業への取り組みを後押しする岡山県が「農福連携」で生まれた農産品などをPRするため、2016年から開催（2020、2021年はコロナ禍で中止）。今年は26団体が出店しました。

旭川荘のテントでは、岡山県産の檜を使ったキーホルダーなどの木工製品をはじめ、おからや県産の材料で作ったクッキー、水引を加工したアクセサリー、布製品などを販売。中でも、望の丘ワークセンターが栽培した新高梨は、用意していた約50個が初日の夕方にはほとんど売れるなど大好評でした。

テントに並ぶ製品を買い求める人たち

都府県マグネットなどが入った「ガチャ釣り」は子どもに人気

津山市で「きらぼし★アート展」 旭川荘利用者の秀作も紹介

岡山県内の障害のある人たちのアート作品を紹介する「きらぼし★アート展」が12月1日から8日まで、津山市立文化展示ホール（津山市新魚町）で開催され、旭川荘の利用者が制作した絵画や造形作品なども会場を彩りました。

絵画新人賞に輝いた関口浩太さん（ペンネームKOU）の作品「竜のおじいさま」

8回目を迎えた同展には、絵画、写真、造形、新設のデジタルアートの4部門に計358点の応募があり、一次審査を通過した134点（絵画79点、写真20点、造形24点、デジタルアート11点）が同ホールに並べられました。

旭川荘関係では、プラスチック段ボールにジンベイザメやエイなどカラフルな水族館の生き物を貼り重ねた、デイセンターあかしやの共同作品のほか、あおば、いんべ通園センターの絵画なども展示。カレッジ旭川荘からも3点が出品され、アクリル絵の具と折り紙、割り箸などを使って表現した、関口浩太さん（ペンネームKOU）の作品「竜のおじいさま」が絵画新人賞に輝き、入賞作24点の一つに選ばれました。

デイセンターあかしやの共同作品

障害のある人たちの秀作が並ぶ「きらぼし★アート展」会場

旭川荘ごよみ SCHEDULE CALENDAR

1月

- 9日　新年ご祈念の会 …… 旭川敬老園
- 10日　とんど焼き …… たかはし障害者支援センター
- 14日　二十歳を祝う会 …… 旭川荘療育・医療センター
- 15日　節目の年を祝う会・とんど焼き …… せとうち旭川荘
- 24日　人生の節目を祝う会 …… いんべ通園センター
- 29日　節目を祝う会 …… いづみ寮

2月

- 1日　2年生課題研究発表会 …… カレッジ旭川荘
- 10日　成人を祝う会 …… ひらた通園センター
- ☆節分行事～各施設

編集後記

旭川荘には創設期から施設の設立とともにたくさんの木々が植えられてきており、四季折々にその姿を変化させながらわたしたちを見守ってくれています。冬支度が始まると背景の山々との調和が絶妙で、本当に誰かに伝えたくなるわたしの心の風景です。新しい年もこの木々たちにも守られながら、旭川荘のさまざまな風景を発信できればと思います。

（広報委員　笠原佳子）